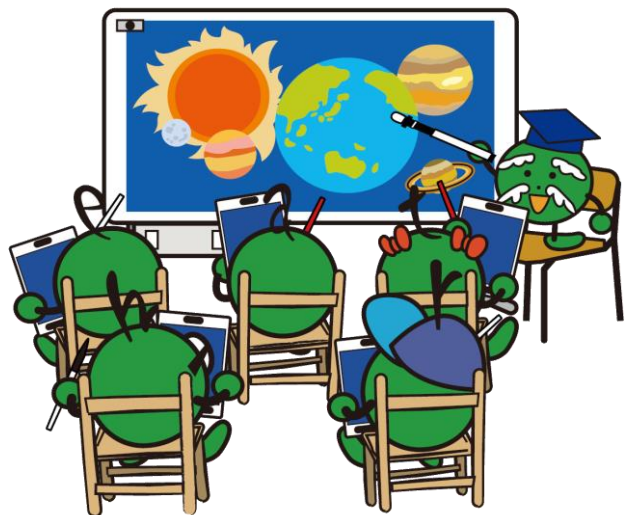


2022年度 こどもエコクラブ

サポーターアンケート結果報告書



公益財団法人日本環境協会
こどもエコクラブ全国事務局

調査のあらまし

【調査目的】

こどもエコクラブのサポーター及び活動の実態を把握し、こどもエコクラブが持続可能な社会づくりの担い手育成に対してどのように貢献しているか、またどのような課題を抱えているかを明らかにするとともに、調査結果を関係者と共有し、今後の事業展開の参考としていただきます。

【実施概要】

1. 対象

2022年度登録クラブ(1,960クラブ、2023年1月末時点)のうち

①メールアドレスが登録されている 1,665クラブ

②FAX番号が登録されている 16クラブ

合計1,681クラブ

2. 実施期間

2023年2月1日～3月30日(※当初の3月24日締切を延長)

3. 実施方法

・アンケート回答用ウェブページを作成してメールまたはFAXでURLを案内して回答を依頼

・インターネットが使用できないクラブにはFAXでの回答を依頼

※3月8日にメールで再度回答をお願いしました

4. 有効回答数

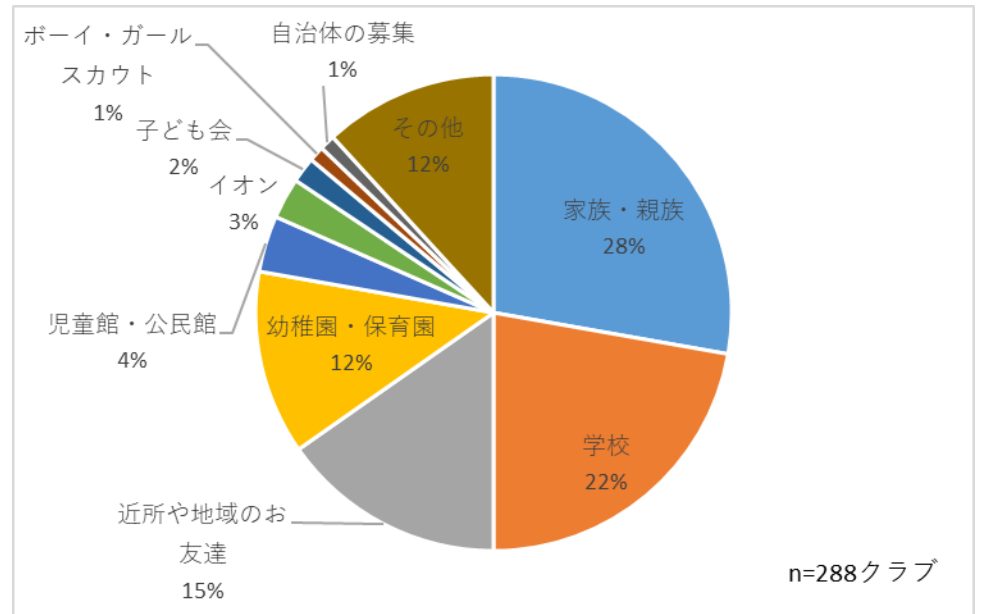
①ウェブサイトからの回答: 280件

②FAX等での回答: 8件

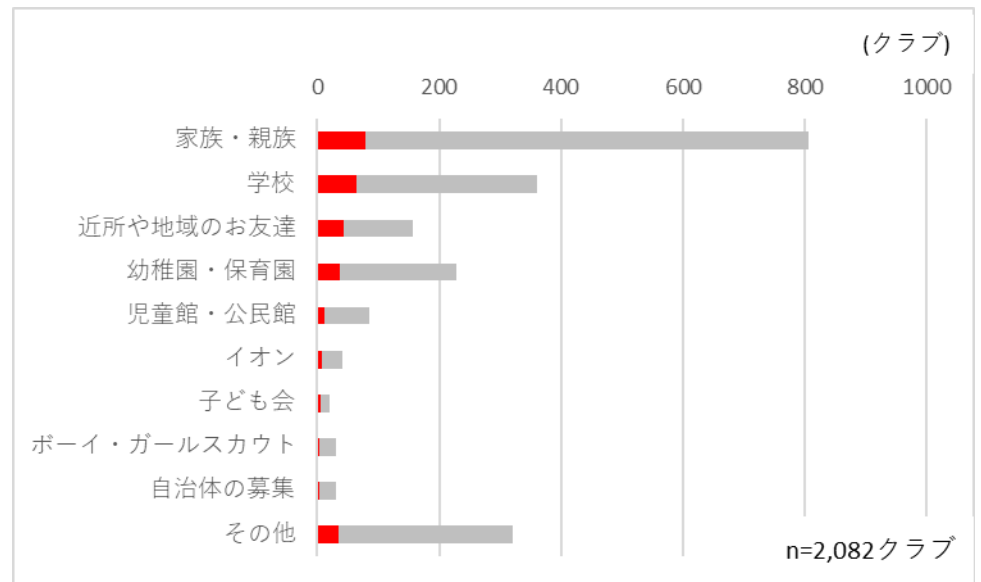
合計: 288件(回答率17.1%)

多様な設立形態のクラブから回答をいただきました

- 右の図は、アンケートに回答をいただいたクラブの設立形態を表します。
- 親子で結成したクラブ、学校で取り組むクラブ、近所のお友達が集まったクラブなど実に多彩な設置形態のクラブから回答を得ることができました。
- このように多様な集団に所属する子どもたちが「こどもエコクラブ」の名のもと、全国で活動しています。

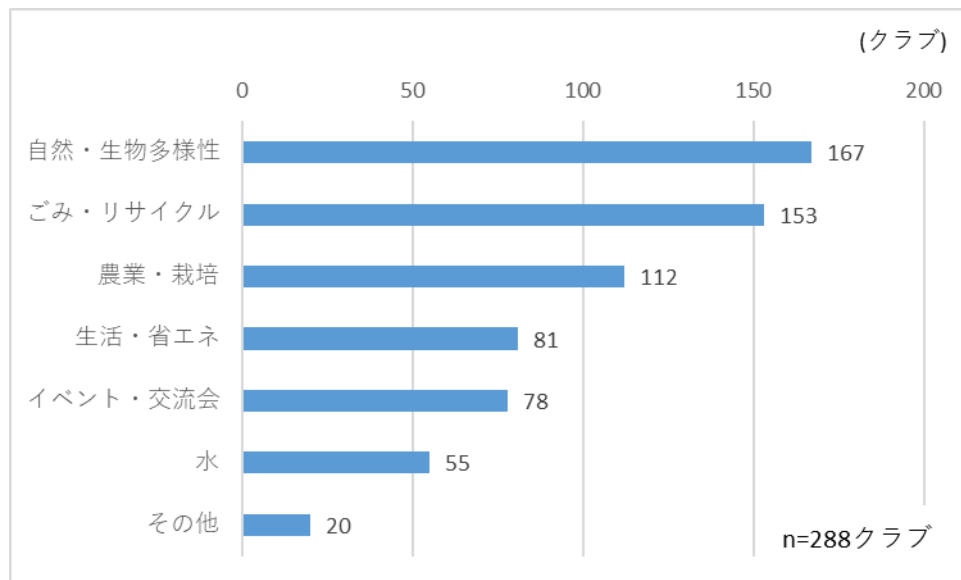


- 右の図は、こどもエコクラブ全国事務局が管理するデータベースを基にして2023年3月末時点で登録があったこどもエコクラブ2,082団体を形態別に表したものです。
- クラブの設置形態別に、回答をいただいた数を赤く色づけしています。
- 回答の比率で見ると「近所や地域のお友達」が結成したクラブがやや高いようです。

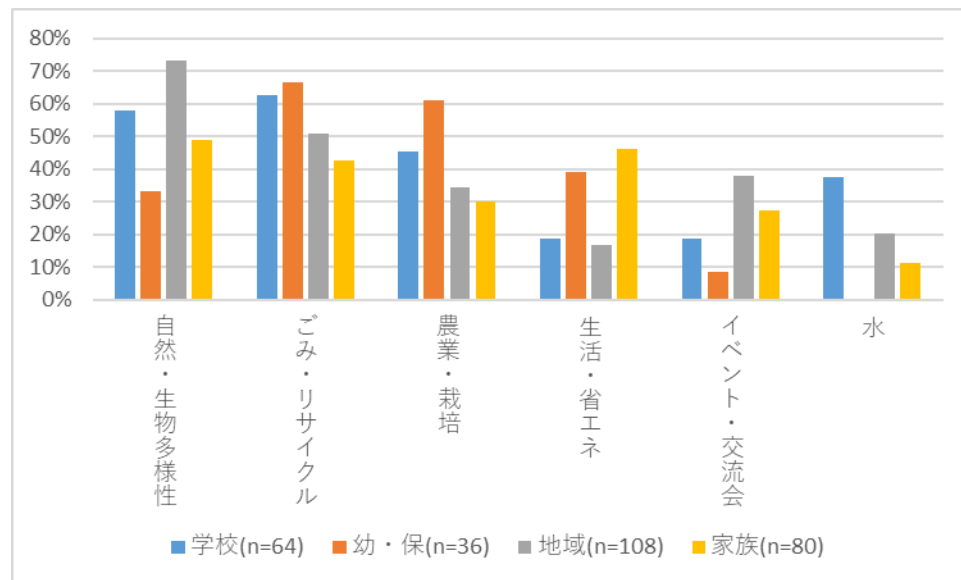


多様な活動分野・参加人数（1）

- 右上の図は主な活動分野を表します。選択肢から3つまで選んでいただきました。
- 自然や生き物をテーマとした活動が最も多く、次いで「ごみ・リサイクル」、「農業・栽培」の順となりました。
- 昨年度と比較して、「イベント・交流会」が大きく伸びています。コロナが収束に向かいつつある中で、イベント等の実施・開催数が回復基調にあることを反映していると考えられます。

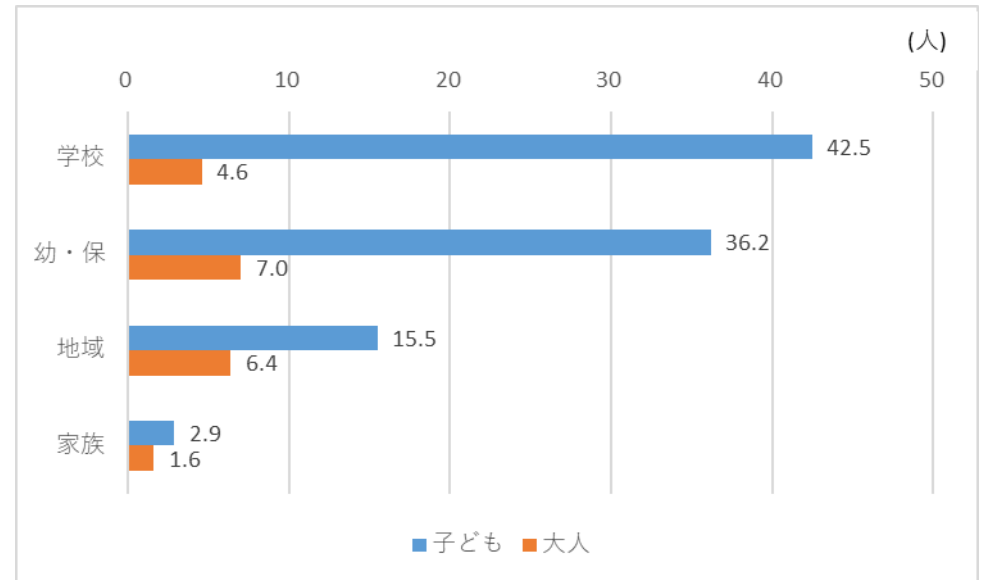


- 右の図は各活動分野を実施したクラブの割合を形態別に算出したものです。「学校」、「幼稚園・保育園」、「家族・親族」以外の設立形態を、「地域」としてまとめました(以下同じ)。
- 幼稚園・保育園のクラブでは、散歩などに合わせて取り組める「ごみ・リサイクル」、園庭等で実施できる「農業・栽培」の割合が高くなっています。
- 家族クラブでは、家の中でも気軽に取り組める活動として「生活・省エネ」が比較的多く実施されています。



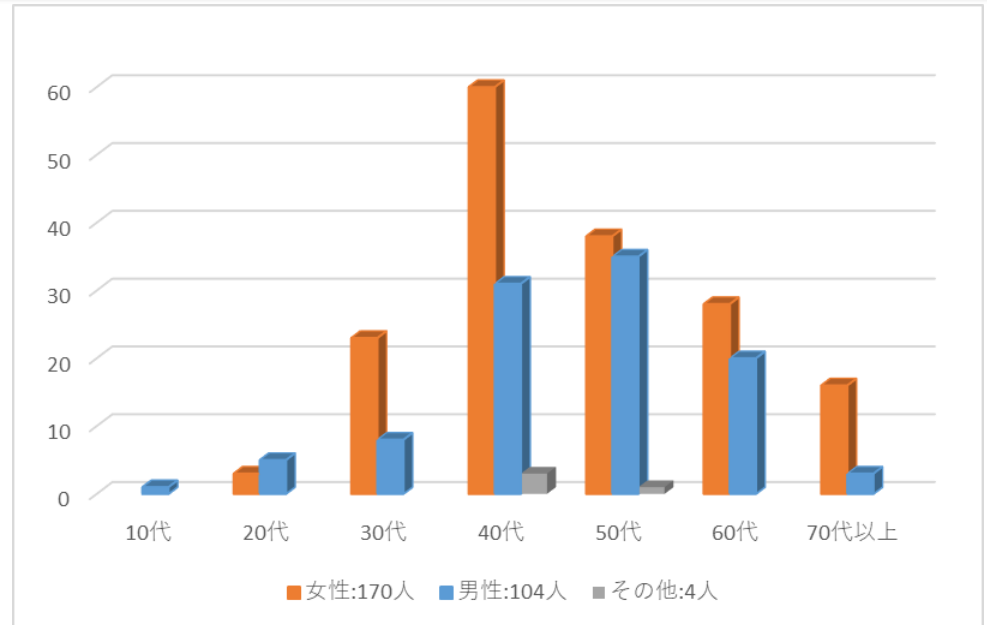
多様な活動分野・参加人数（2）

- 右の図は活動1回あたりの平均参加人数を表します。
- 幼稚園・保育園、学校のクラブでは、当然のことながら参加人数が多くなっています。幼稚園・保育園では子どもの参加人数に対する大人の数が学校よりも多く、活動の際に大人が目が多くあることが重要だと考えられます。

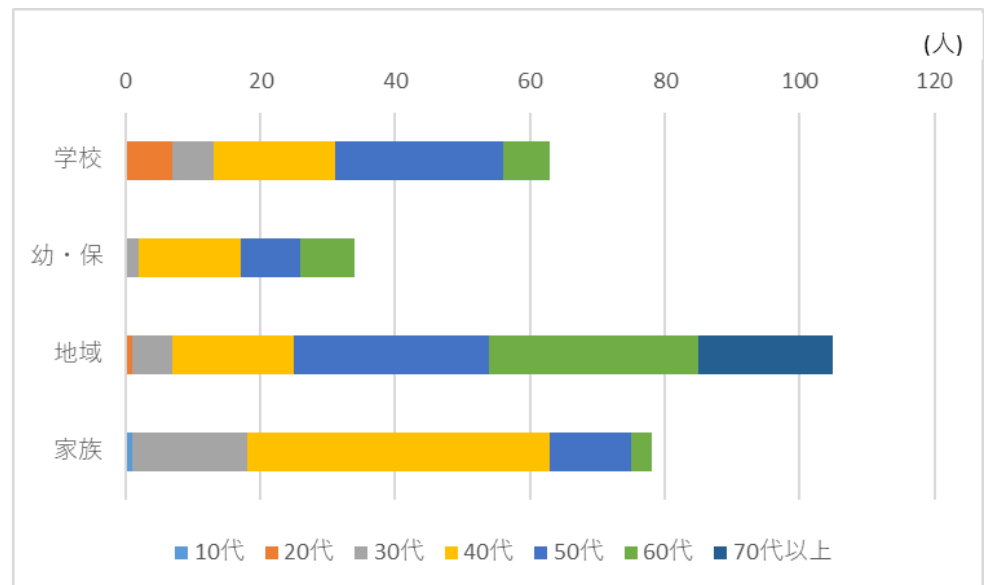


代表サポーターは多様性に富んでいます (1) 年代

- 右の図は、代表サポーターの年代と性別を表しています。幅広い年代がありますが、中でも**40代の女性が多い**ことが特徴です。「働き盛り年代」が地域の環境問題に携わっていただいていることが本事業の大きな強みです。
- 「家族」のクラブは、母親が代表サポーターとなるケースが多く、子どもの成長に影響力が強い母親が携わることも強みです。
- **10～20代の若者世代は、代表サポーターではなく活動をサポートするスタッフとして関わるケースが多いとみられます。**

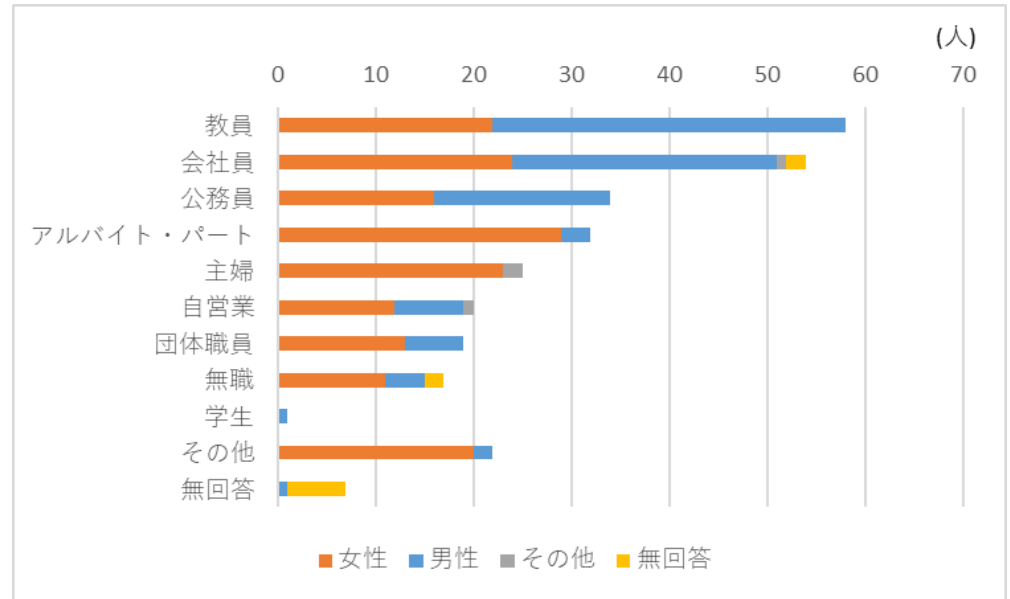


- 右の図は、クラブの設立形態別の代表サポーターの年代を表します。
- 「家族」は幼児～小学生が多いことから、代表サポーターは**40代が多くなります。**
- 「学校」で**60代が代表サポーターを務めているクラブが一定数あり、教職員以外の方が関わる場合もあることがわかります。**
- 「地域」は高齢の方が目立ちますが、若い年齢層のサポーターもおり、幅広い年代層がクラブを支えていることがわかります。

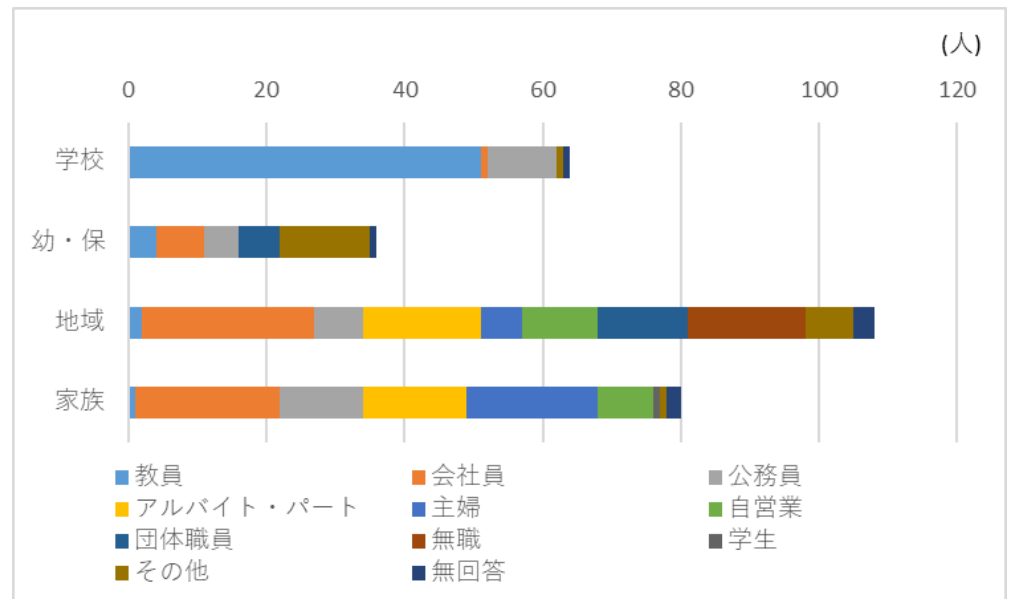


代表サポーターは多様性に富んでいます (2) 職業

- 右の図は、代表サポーターの職業と性別を表します。様々な職業の方が子どもたちの環境活動をサポートしてくださっていることがわかりました。
- セクターを越えて地域の環境問題に携わっていただいている方々とのネットワークを築いていることが本事業の大きな強みです。この強みを活かして地域課題解決のためにマルチ・ステークホルダーによる協働をさらに強化することが今後の課題です。

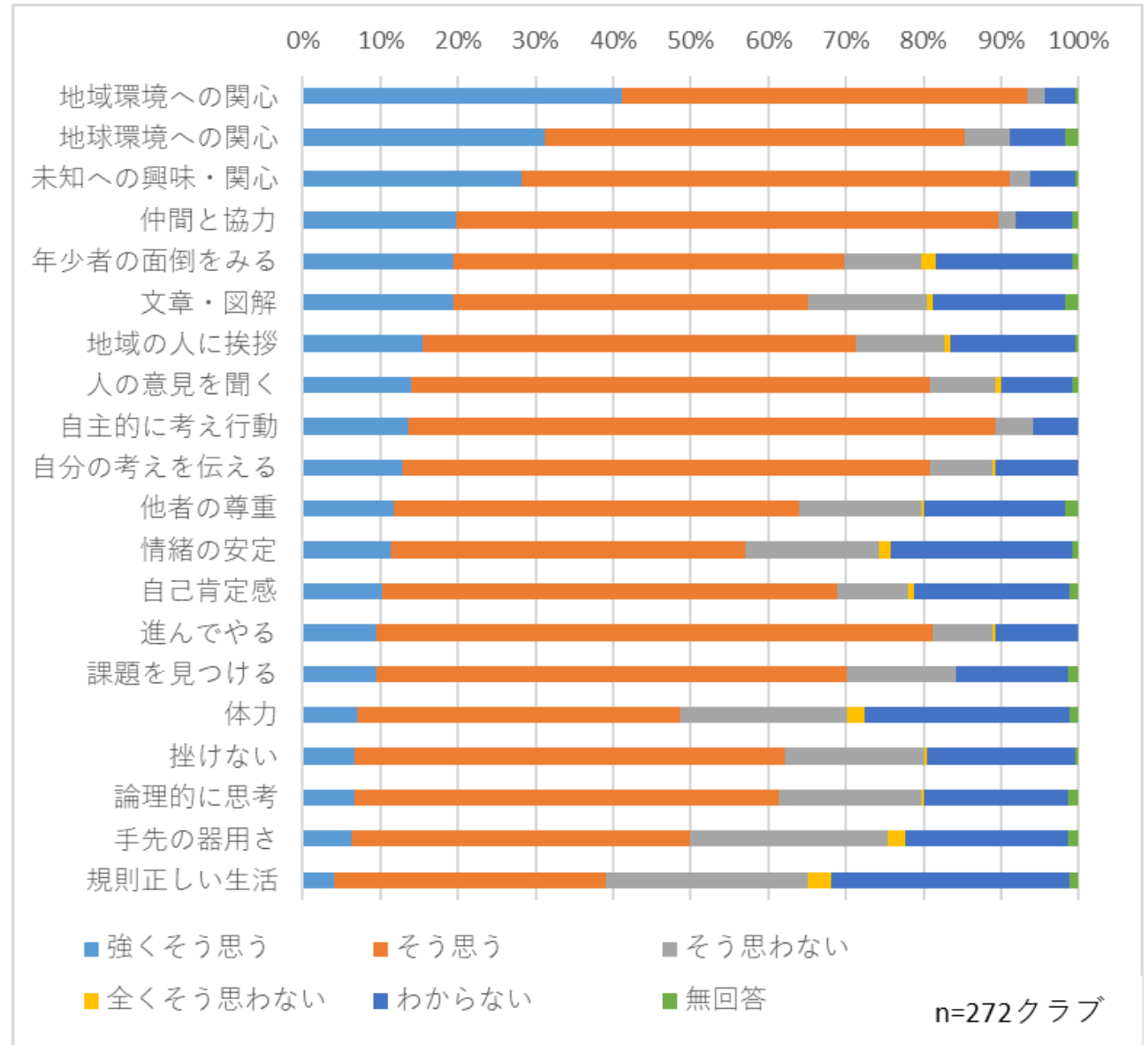


- 右の図は、クラブの設立形態別に代表サポーターの職業を表します。
- 「学校」は教員が多いのは当然ですが、教員以外の方も学校での活動をサポートしていただいていることがわかります。
- 「地域」のクラブは、非常に幅広い職業の方が関わっています。



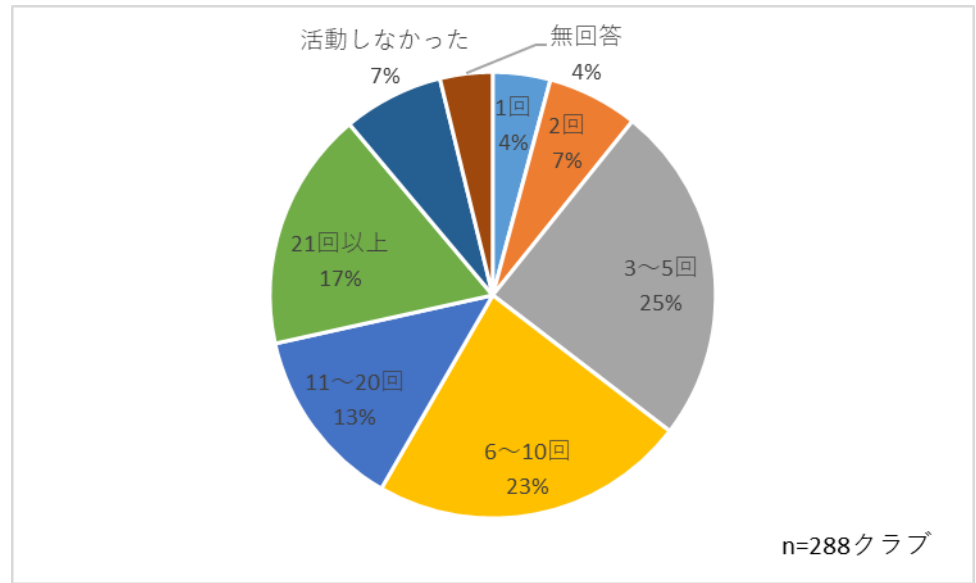
こどもエコクラブはどのように子どもの成長を促しているか

- 右の図は、代表サポーターの方が、こどもエコクラブの活動によって子どもがどのように成長していると感じているかを表します。
- 20の項目ごとに「強くそう思う」「そう思う」「そう思わない」「全くそう思わない」「わからない」の5つの選択肢の中から回答していただきました。
- こどもエコクラブ活動によって、環境への関心が高まっただけでなく、仲間と協力したり、年少者の面倒をみたり、といったコミュニケーションについても、子どもの成長を感じるという回答が多く寄せられました。

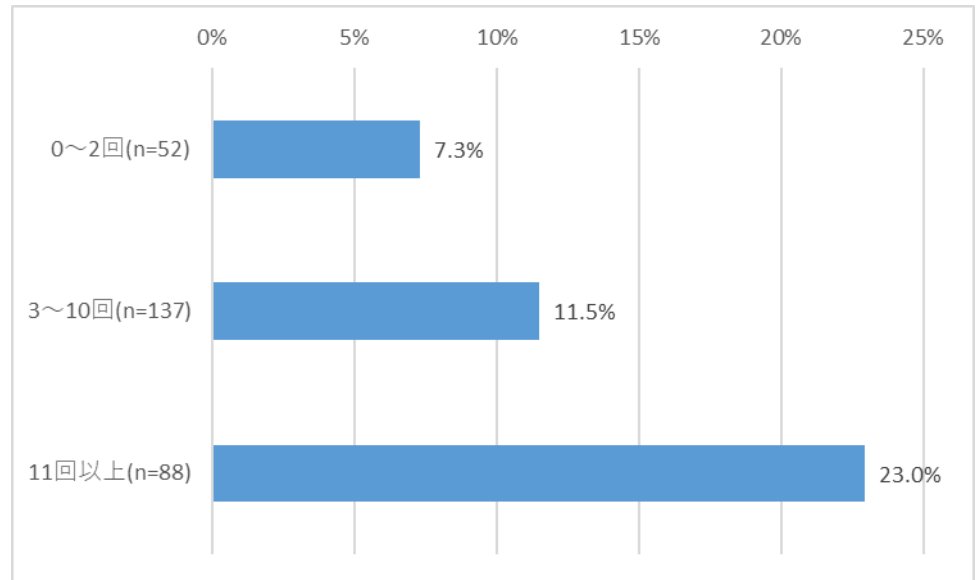


活動回数と子どもの成長

- 右の図は、一年間にクラブが行った活動の回数を表しています。
- 3割のクラブが毎月1回以上活動しており、継続して繰り返し活動することにより子どもたちの成長を促すこどもエコクラブのコンセプトが浸透していることがうかがえます。

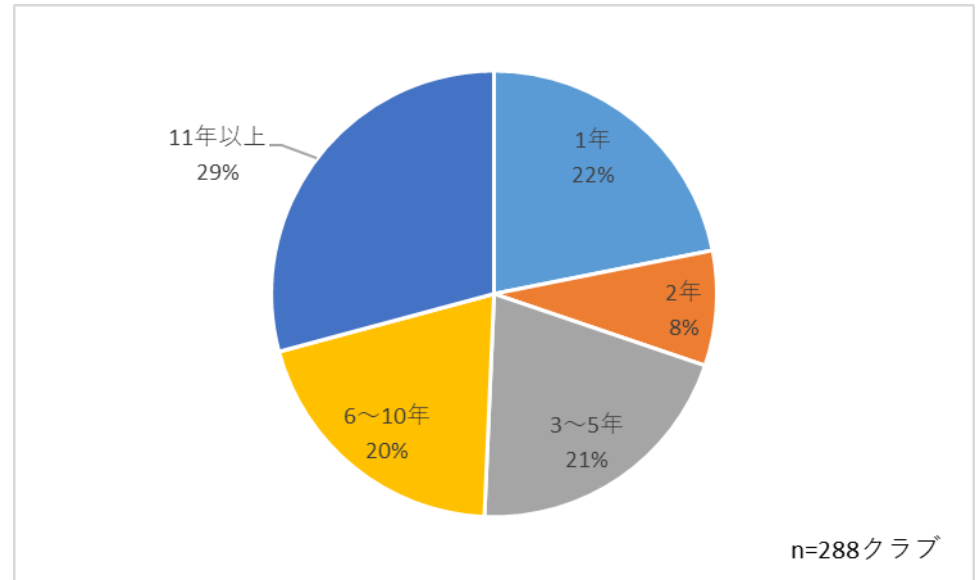


- 右の図は、子どもの成長を把握する20の指標で「強くそう思う」と回答された割合を、年間活動回数(3段階区分)別に表したものです。
- 活動回数が多いクラブほど子どもの成長を感じていることを表しています。
- 子どもの成長を促すために、クラブが継続的に活動できるようサポートをすることが重要です。

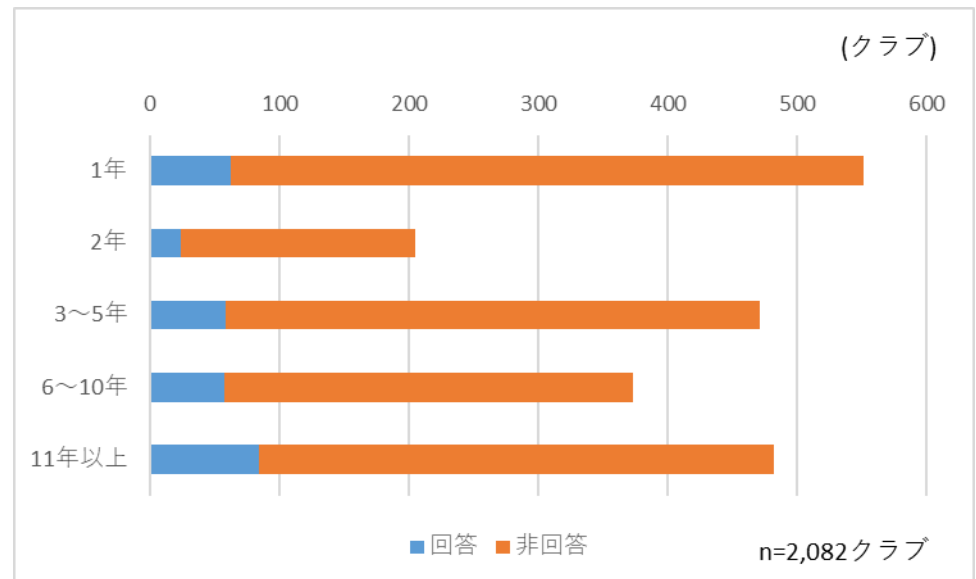


活動年数と子どもの成長（1）

- 右の図は、アンケートに回答をいただいたクラブの活動年数別の割合を表します。
- **2022年度に初めて登録したクラブから25年以上継続しているクラブまでご回答をいただきました。**

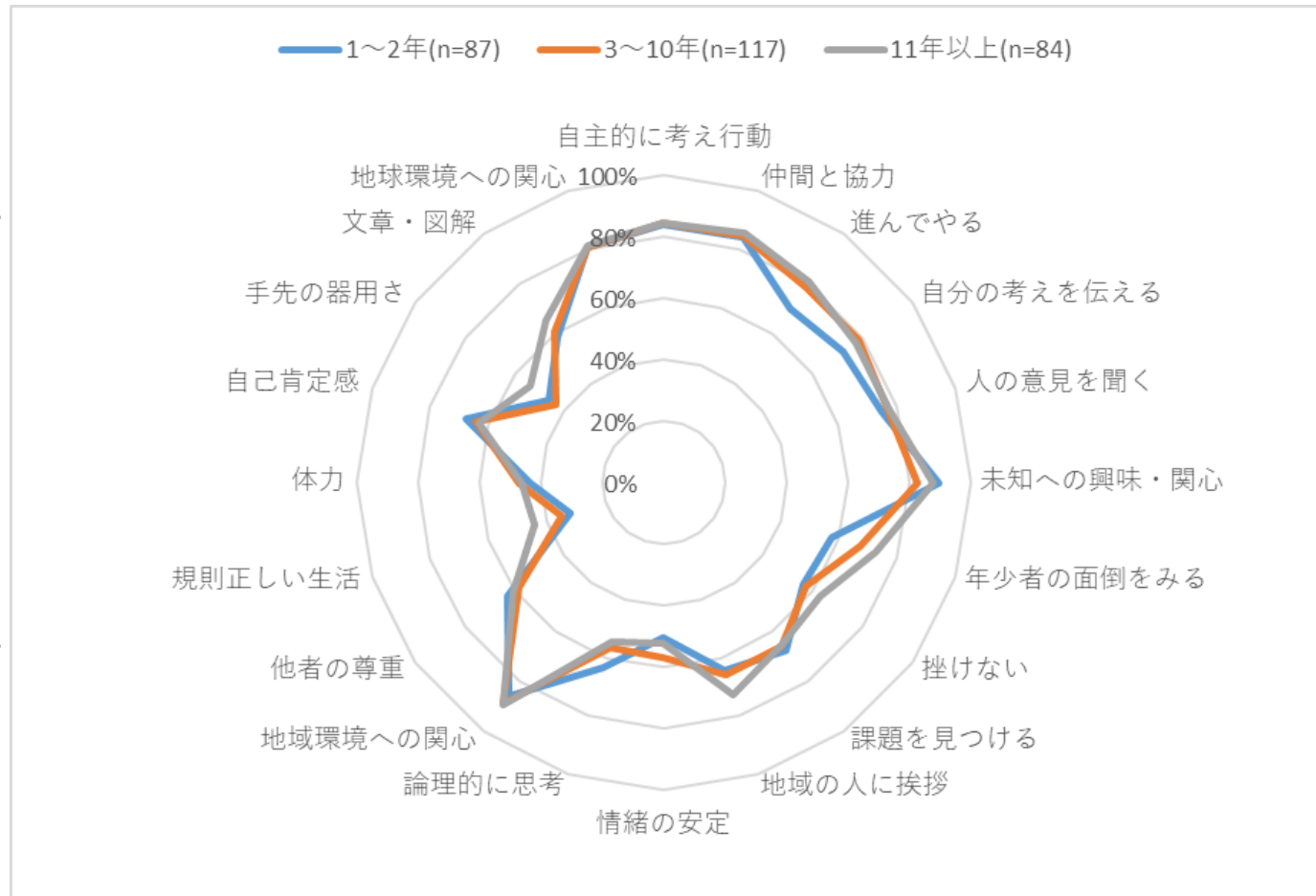


- 右の図は、こどもエコクラブ全国事務局が管理するデータベースを基にして**2023年3月末時点**で登録があった**2,082**のこどもエコクラブを活動年数別に表したものです。
- **3年以上活動**を続けているクラブの数が多くなることがわかります。
- アンケートにご回答いただいたクラブ数を青く色づけしました。
- **11年以上活動**を続けているクラブの回答率が高くなっています。



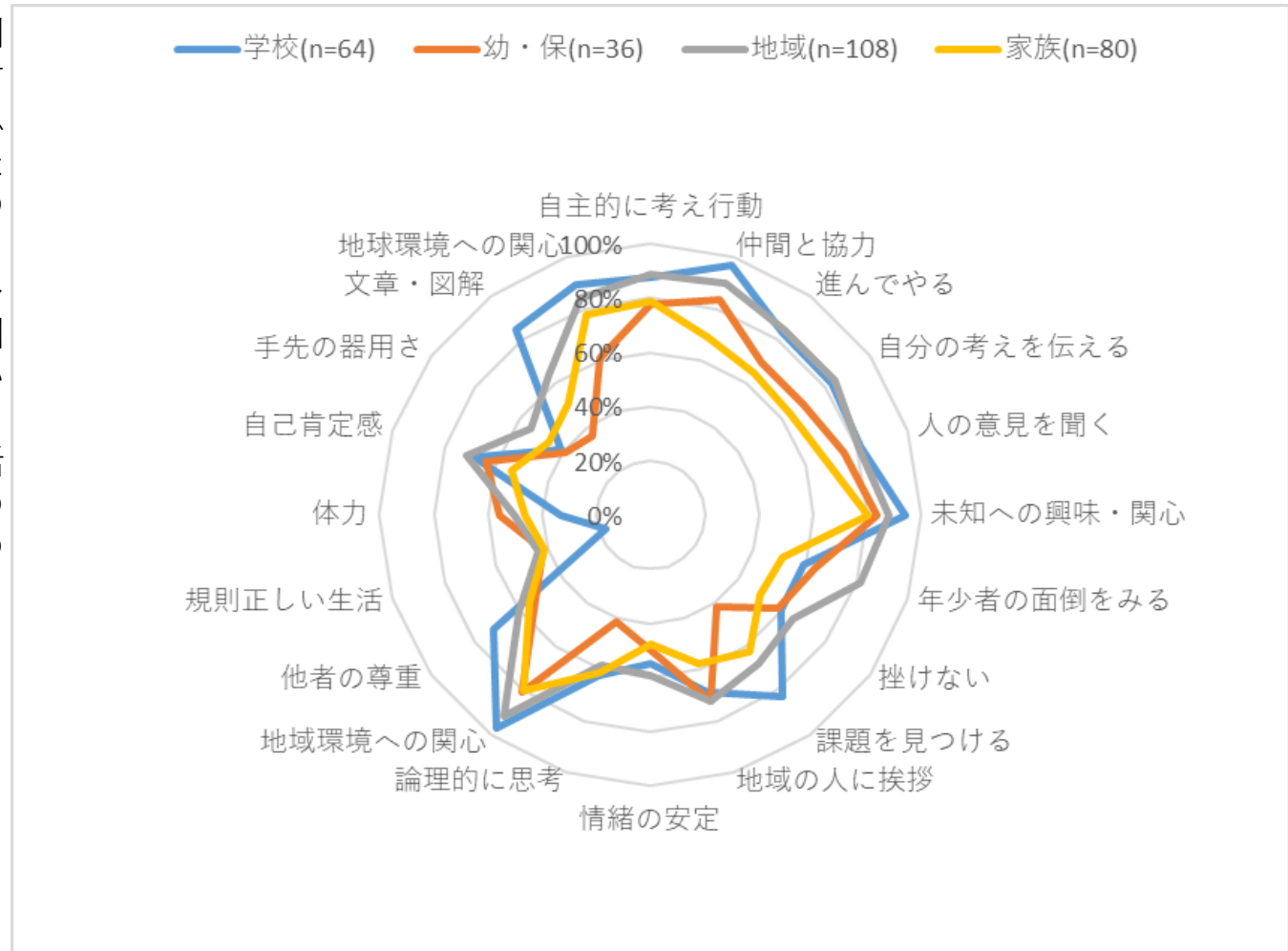
活動年数と子どもの成長（2）

- 右の図は、活動年数別に子どもの成長について肯定的な回答（「強くそう思う」「そう思う」）をしたクラブの割合を表したものです。
- 「年少者の面倒をみる」「地域の人に挨拶」などの項目で、活動年数が高いクラブほど成長を感じる割合が高くなっています。
- しかし、各項目とも大きな差はなく、サポーターの方々は活動年数に応じたレベルで子どもたちの成長を感じていると考えられます。



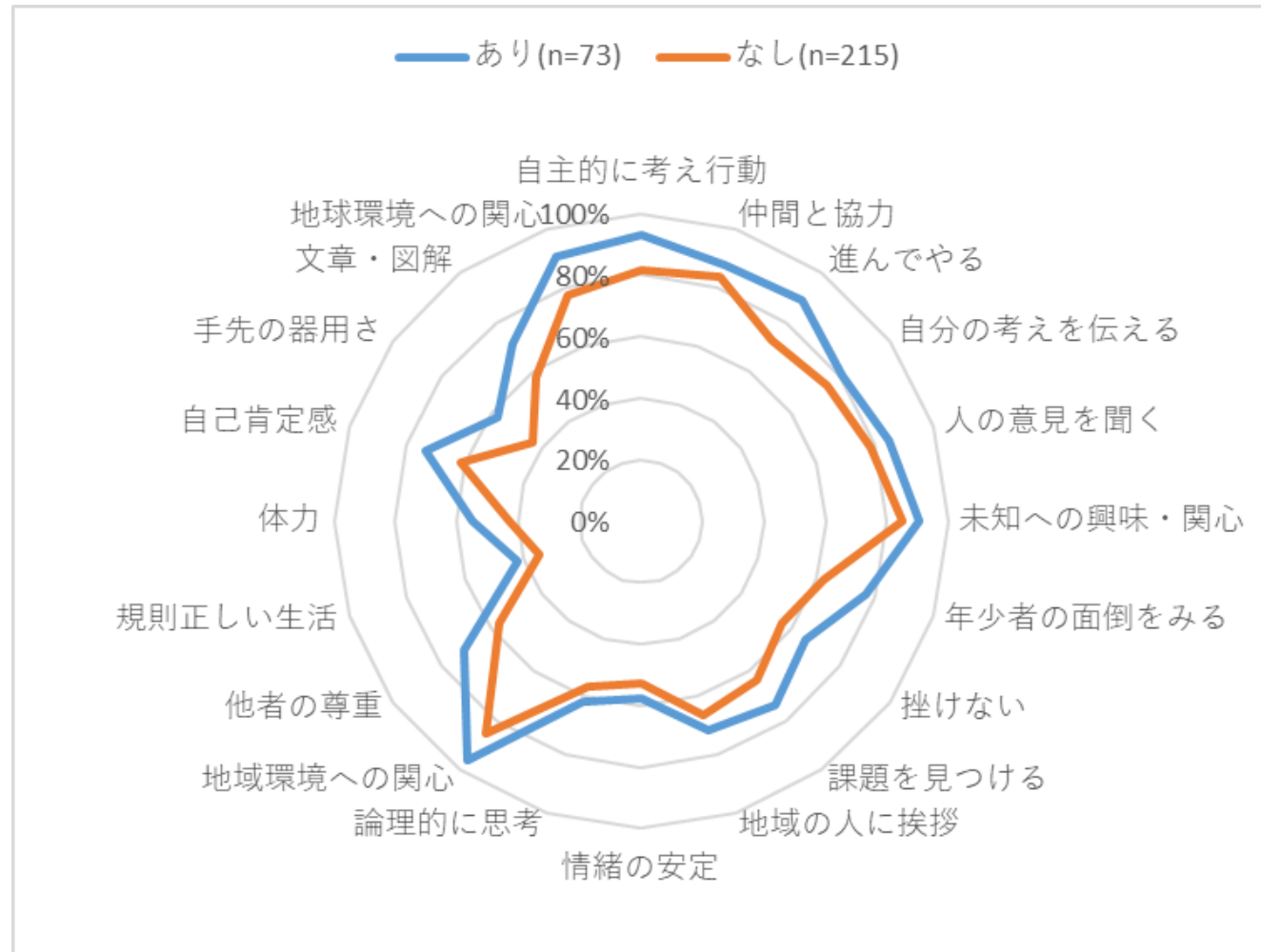
クラブの形態と子どもの成長

- 右の図は、クラブの形態別に子どもの成長について肯定的な回答（「強くそう思う」「そう思う」）をしたクラブの割合を表したものです。
- 学校・地域のクラブが、多くの項目で幼稚園・保育園や家族のクラブよりも高い割合を示しています。
- 家族のクラブでは常に生活を共にしているため、他のクラブに比べると子どもの成長を実感しにくいのかもしれない。



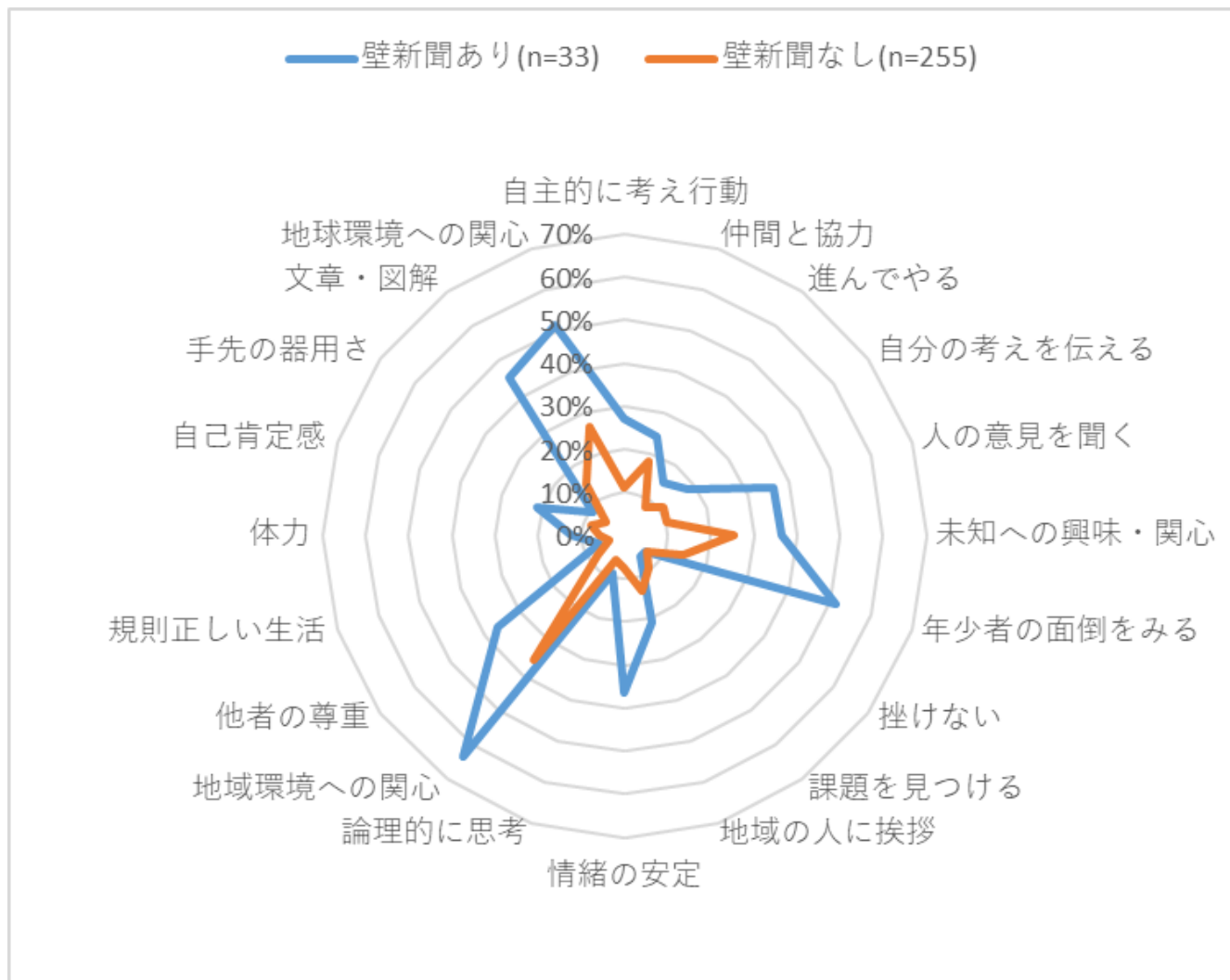
活動レポート・壁新聞と子どもの成長

- 右の図は、活動レポートを投稿したり壁新聞を制作したりしたクラブと、そうしなかったクラブを比較し、子どもの成長について肯定的な回答（「強く思う」「そう思う」）をしたクラブの割合を表したものです。
- ほぼ全ての項目において活動レポート・壁新聞に取り組んだクラブが子どもの成長をより感じています。



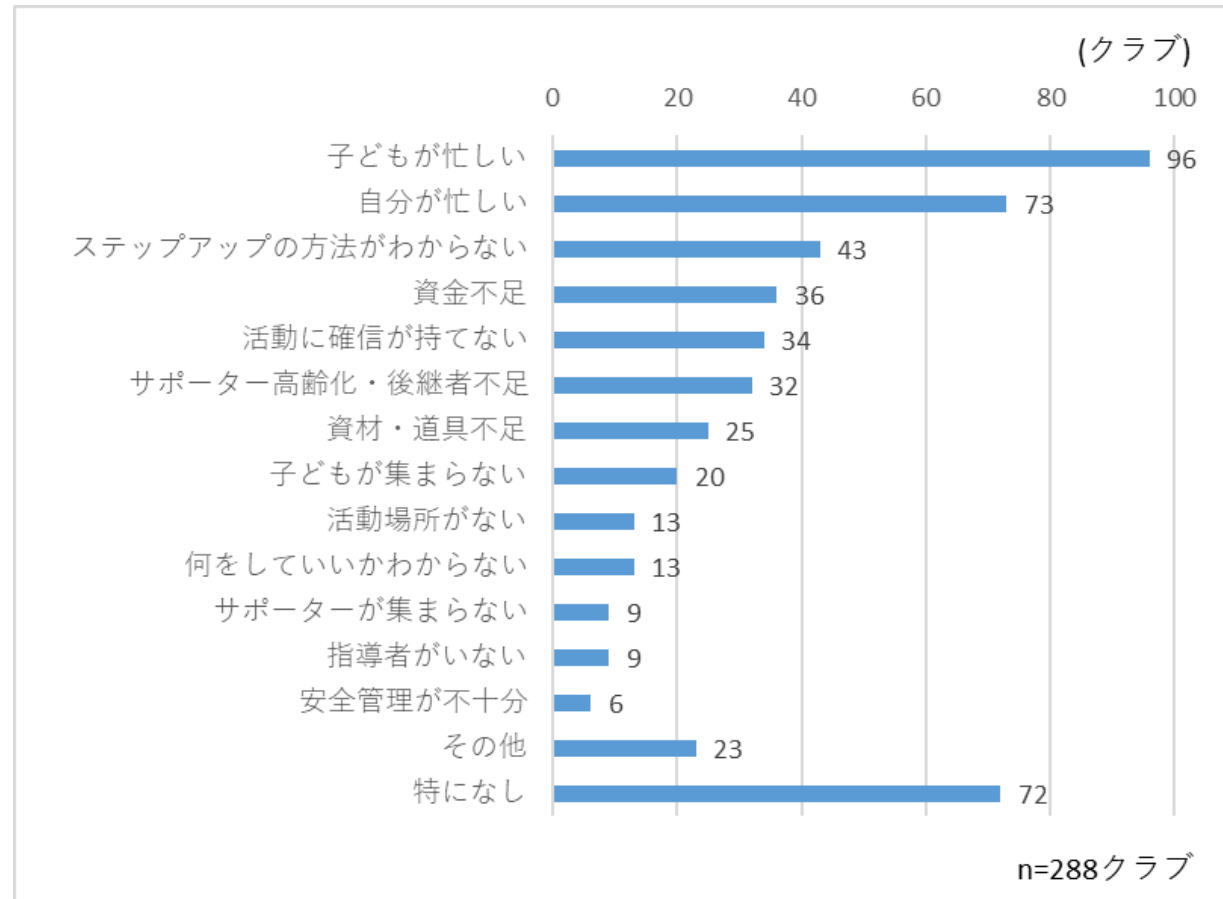
壁新聞と子どもの成長

- 右の図は、壁新聞を制作したクラブと制作しなかったクラブを比較し、子どもの成長について「強く思う」と回答したクラブの割合を表したものです。
- 全ての項目において壁新聞を制作したクラブが子どもの成長をより感じています。
- 特に「年少者の面倒をみる」「文章・図解」の項目で大きな差があります。異年齢のメンバーで構成されるクラブでは、年長者がリードしながら協力して壁新聞を制作していることがうかがえます。
- 壁新聞制作には労力がかかりますが、この結果からも子どもの成長を促す良いツールであることが明らかです。壁新聞を作るクラブを増やす努力を今後も継続して参ります。



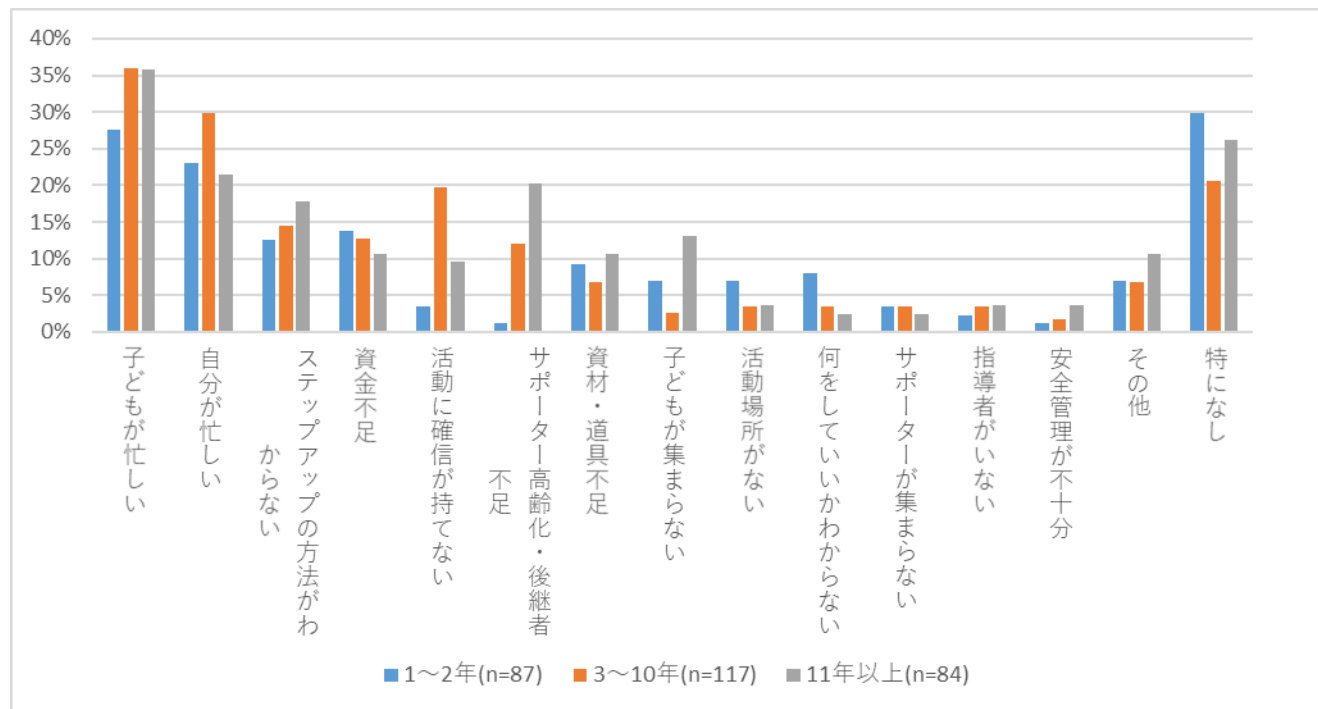
サポーターの悩み（1）

- 右の図は、サポーターが課題と感じていることを複数回答で答えていただいた結果を表したものです。
- 子どももサポーターも忙しくなっているとの回答がたくさんありました。
- 子どもの成長を促す方法がそれに続きます。ステップアップについては、壁新聞づくりが有効であることが裏付けられました。壁新聞づくりを通じて一年の活動をふりかえり、学んだことを仲間と共有するとともに、次年度の活動に活かすPDCAがクラブに定着するよう努めて参ります。
- 「子どもが集まらない」は昨年度より減少しました。コロナ禍による参加人数不足はほぼ解消されたと推測されます。



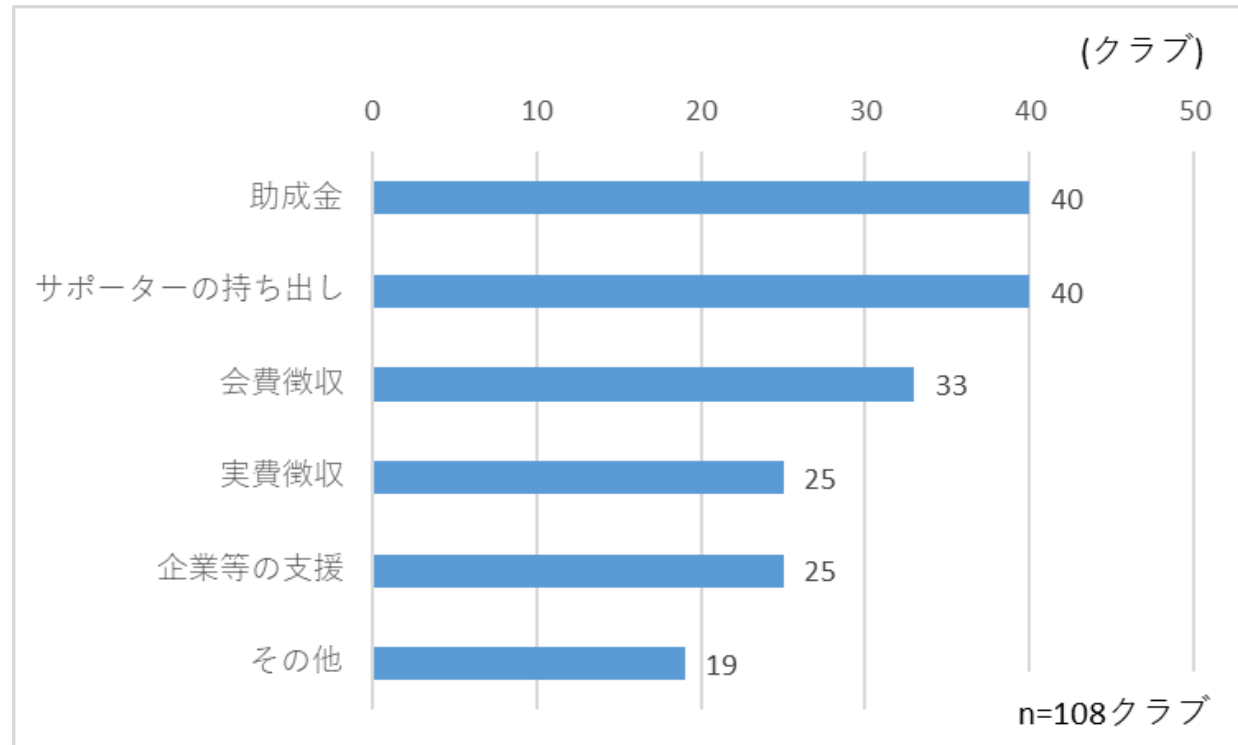
サポーターの悩み（2）

- 右の図は、各項目を課題と感じているサポーターの割合を継続年数別に算出したものです。
- 活動を始めたばかり（1～2年）のクラブでは何をしたいかわからない、活動場所がないなどの悩みが目立ちます。
- 一方、11年以上のクラブでは、サポーターの高齢化・後継者不足、子どもが集まらないなどを課題と感じている方が多くいらっしゃいます。
- 全国事務局では継続年数に応じたきめ細かなサポートを強化します。



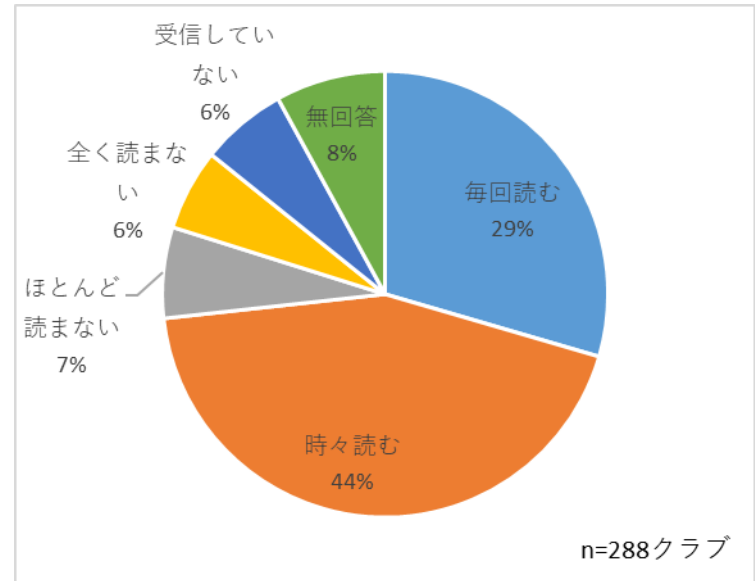
活動資金源

- 右の図は、「地域クラブ」が活動資金をどのように得ているかを回答していただいたものです。
- 各クラブが工夫して様々な資金源を用いていることがわかりますが、クラブの活動を持続可能にしていくためにはサポーターによる持ち出しを少なくしていく必要があります。
- クラブが申請可能な助成金の情報を求める意見が多く寄せられました。地域限定のものも含め、ウェブサイトでの情報提供を充実させてまいります。

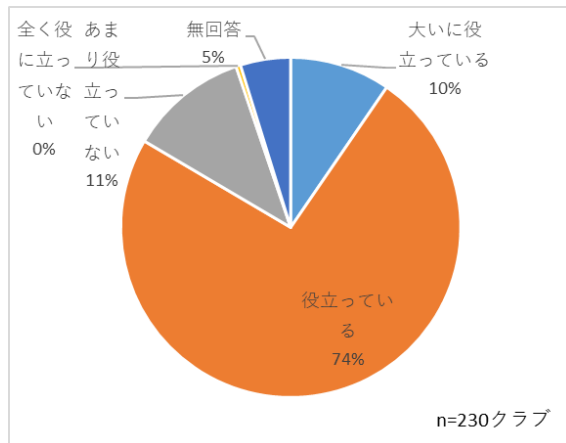


メールマガジン（1）

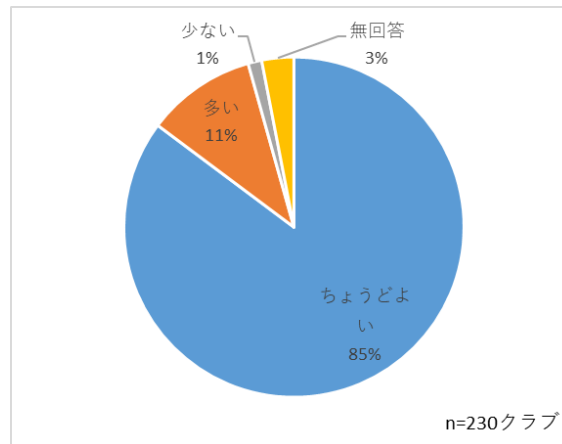
- 右の図は、月2回配信しているサポーター向けのメールマガジンについてきたものです。メールマガジンの開封率は約40%ですので、アンケート未回答のクラブの多くは読んでいないと考えられます。
- ウェブサイト・メールでの情報提供が全国事務局によるサポートの中核になっていますので、多くのクラブが毎回読んでくださるようになることが目標です。
- メールマガジンを読んでいるクラブには、概ね役立つ情報を提供できています。配信頻度・分量も適切なようです。



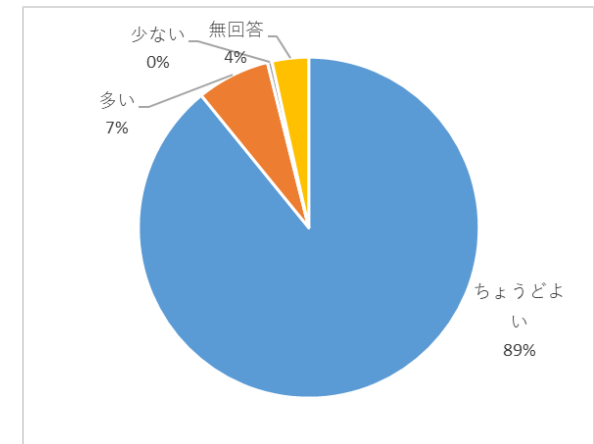
【有用性】



【配信頻度】



【分量】



メールマガジン（2）

- メールマガジンを毎回読むわけではないサポーターに、どのような内容を掲載してほしいか聞いたところ、右の図のようになりました。
- ウェブサイトの更新情報だけでなく、活動に直接役立つような情報やノウハウが求められていることがわかります。具体例として、環境活動に限定しないサステナビリティ全般に関する情報や、季節に合わせた生き物の話、清掃活動後のごみの処分方法などが挙げられていました。今後のメールマガジンの制作に活かしてまいります。

